

百年記念施設の継承と活用に関する考え方の概要

～50年後を見据えた自然・歴史・文化「体感」交流空間としての再生～

○百年記念施設：北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔

1 趣旨

- ・ 来年は北海道 150 年の節目の年を迎える
- ・ 北海道の自然、歴史、文化を次の世代に引き継ぐ
- ・ 2020 年以降も見据えて世界に誇れる本道独自の自然・歴史・文化を発信



この貴重な空間を今後の50年、100年先をも展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくのかを検討し、今後の議論の方向性をまとめる。

2 検討の経過

平成 28 年 9 月に文化、観光振興、公共政策等の有識者による懇談会を設置し、幅広い意見を伺った（5回開催）。

3 課題と今後の方向性

区分	課題	今後の方向性
エリア全体	本道が積み重ねてきた歴史・文化や、自然に触れることができる貴重な場であるが、施設の老朽化等により、開設当時に比べて利用者が減少している。	施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めた空間として捉え、隣接する他の文化・スポーツ施設等とも連携しながら、自然・歴史・文化「体感」交流空間として再生をめざす Keyword 学ぶ、触れる、集う、繋がる
北海道博物館	・ H27 年にリニューアルし、利用者が増加したが、今後も更なる魅力向上が必要	・ 本道の中核的博物館、道民参画型博物館として、更なる魅力向上に努める ・ 2020 年に開設される国立アイヌ民族博物館等との幅広い連携
北海道開拓の村 (S58 年～)	・ 利用者の減少傾向 ・ 老朽化が顕著 ・ 修繕の資材・技術者不足	・ 多言語対応や魅力的な体験型イベント実施を通じて、訪日外国人を惹きつける ・ 民間の資金や活力の導入可能性の検討 ・ 代替素材を活用した修繕手法導入
北海道百年記念塔・記念塔前広場 (S45 年完成)	・ 老朽化が顕著（立入禁止） ・ 今後も維持していくためには多額の費用が必要	・ 安全性や将来負担、周辺施設との関連など様々な観点から引き続き検討 ・ 佐藤忠良氏のレリーフを活かした新たなモニュメントの設置など本道の歴史に対する思いを引き継ぐ手法も検討

4 今後の検討の進め方

この考え方を基に、様々な機会を通じて幅広く意見も伺いながら、議論をさらに深め、北海道150年の節目となる平成30年までに再生に向けた構想を取りまとめる。

※「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」本文については、北海道環境生活部文化振興課ホームページをご参照ください。（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/hyakunenkinennsisetu-kangaekata.htm>）